

創刊にあたって

新しい十日町市博物館（以下、「新博物館」）は、令和2（2020）年6月1日に開館しました。新博物館は、「国宝・火焰型土器のふるさとー雪と織物と信濃川ー」をテーマに、導入展示室「十日町プロローグ」、テーマ展示室Ⅰ「縄文時代と火焰型土器のクニ」、テーマ展示室Ⅱ「織物の歴史」、テーマ展示室Ⅲ「雪と信濃川」の4つの展示室で構成されています。「縄文時代と火焰型土器のクニ」の展示室には、国宝「笹山遺跡出土深鉢形土器群」と、火焰型・王冠型土器をはじめとする館所蔵の縄文土器コレクションが一堂に展示されています。「織物の歴史」の展示室では、重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料」を中心に展示し、古代から現代までの織物の生産工程や歴史などを通史的に理解することができます。「雪と信濃川」の展示室では、重要有形民俗文化財「十日町の積雪期用具」を中心に展示し、十日町市の歴史文化の舞台となる雪や信濃川について知ることができます。

博物館には、いわゆる「表の顔と裏の顔」があります。資料の収集、整理、保管（収蔵）、調査、研究という仕事は裏の顔であり、展示や教育普及などが表の顔であります。新博物館においては、文化財課と博物館という2つの組織が、車の両輪のごとく日々の業務に取り組んでいます。新博物館は、生涯学習の拠点であるとともに、情報発信の拠点という機能を有しています。展示は実物資料を中心とし、映像、音声、模型、参加体験型展示などの手法も取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示となるように工夫しています。また、解説文、音声ガイド、タッチパネルなどの多言語化（英語）にも取り組んでいます。今後、教育普及、情報発信にさらに力を入れていきたいと考えています。

このたび、新博物館の研究紀要が創刊のはこびとなりました。お蔭さまで、旧博物館での約40年の蓄積と新博物館開館後約2年の実績のうえに、ようやく調査・研究活動の一端を報告できるまでになりました。本誌は新博物館及び同館に関連する部署における調査・研究の成果を公開し、次に掲げる事項を達成することを目的としています。

- （1）地域史の新たな1ページを創出し、市民・国民に情報提供することで、当地域文化への知的興味を呼び起こし、考えるきっかけづくりを行う。
- （2）博物館等が展示会のバックグラウンドで日頃から調査研究を行っていることを市民に周知し、博物館業務への理解を広める。
- （3）執筆者の学的研鑽を促して能力向上を後押しし、以て博物館の機能強化に繋げる。

掲載する原稿は、論文等（論文、研究ノート、報告）、資料紹介、新刊紹介などから構成され、オンラインジャーナルとして公表されます。

職員一同、なお一層の調査・研究活動の充実を図り、「十日町市の多様な歴史・文化などを保存・継承するとともに地域文化の拠点施設として発信するため」の努力を重ねてまいりたいと存じます。今後ともよろしくご指導、お力添え賜わりますようお願い申し上げます。

館長 石原 正敏